

◆ **令和元年8月九州北部地域の大雨の被災に伴う第35回及び第36回災害ボランティア活動**として、9月12日（木）～14（土）佐賀県武雄市及び福岡県八女郡広川町において復旧活動を実施しました。

1. 第35回災害ボランティア活動を筑後信用金庫有志14名で12日～13日に実施しました。

（1）9月12日（木）、九州ひぜん信用金庫有志6名および当金庫有志10名は、武雄市災害ボランティアセンターにおいて受付終了というアクシデントを乗り越え、民間ボランティアを通じて活動をしました。当金庫10名は別行動となり、武内地区で住民の方とともに水路の土砂撤去作業を10時頃から15時までほとんど炎天下で作業し、体力の消耗が激しいものでした。

作業内容は、U字溝約100メートル弱にわたって堆積した土砂を撤去するもので、作業終了時には水が流せる状態となり達成感を味わうことができました。また、地域の高齢化が進んでいることもあり、作業が終わると住民の方々に非常に感謝されました。

（2）9月13日（金）、九州ひぜん信用金庫有志6名および当金庫有志4名は、武雄市災害ボランティアセンターの受付後、合計10名合同での活動となりました。活動現場は、床下浸水した高齢者ひとり暮らしの個人宅で、ボランティア活動が数回行われたようですが、今回は畑からの土石撤去作業を行いました。

2. 第36回災害ボランティア活動として、9月14日（土）筑後信用金庫有志3名が福岡県八女郡広川町にて、床下浸水した住宅の床下泥撤去作業を実施しました。広川町は当金庫のテリトリー内であり、今回の大雨で50軒以上の家屋が床上・床下浸水の被災が発生しているということです。現在朝倉市に拠点を置き、当金庫と一緒に活動した「杷木復興支援ベース」の協力を得て、今月7日から復旧活動が開始されています。

作業内容は、10：00過ぎから14：00頃まで、高齢者のひとり暮らしで床下浸水した個人宅の土砂撤去作業を行いました。1チーム7名が担当し、床下収納口から4名がもぐり、床下泥の表面を削り取り搬出するものでした。床下約60センチの高さの中で、ヘッドランプ、マスクおよび雨合羽を着ての作業のため体力が消耗しました。一緒に活動したベテラン2人は、床下奥まで入り消毒をされる丁寧な作業で感動しました。

作業が終了した旨を、リーダーが依頼人に報告されると、依頼者からは何度も感謝の言葉をかけられました。

参加された皆様、炎天下の中での活動お疲れ様でした。

< 9月12日(木) >



(九州ひぜん信用金庫との合同写真)



(地元住民との集合写真)

< 9月13日(金) >



(九州ひぜん信用金庫との合同写真)

< 9月14日(日) >

(参加者集合写真)



(12日の活動風景)



(作業開始前)



(作業風景 1)



(作業風景 2)



(作業風景 3)



(作業風景 4)



(作業完了)